

加古川市を全国にPRしようと、NPO法人・踊っこまつり振興会が、日本書紀や古事記に登場する地元ゆかりの「倭建命」(通称・ヤマトタケル)をイメージした踊りを考案した。誕生

加古川

から日本平定に至る物語を一部構成で表現。同振興会所属の「チーム踊人」の5人が稽古を重ねており、28日に市民会館(加古川町)で初披露する。

(安藤文暁)

ヤマトタケル舞う

チーム踊人のメンバーは、2期生となる社会人と大学生の2人、新人の中学・高校生の

踊っこまつり振興会考案

市民会館で 28日初披露

郎姫命（むすめのみこと）に求愛する場面から始まる。2人の間に皇子ヤマトタケルが生まれ、激しい曲とダイナミックな動きで全国征伐での戦いを演じる。

踊っこまつりに楽曲を提供している同市の「よき音楽」が作曲。同まつりの審査委員

中・高生ら5人稽古重ね

3人。踊りはスローテンポの音楽に合わせ、景行天皇が氷丘地区出身といわれる稲日大

長で、姫路市のダンスクリエーター北村敏明さん(55)が振り付けと演技指導を担った。稽古は6月から毎週取り組み、今月20日には高知県の業者に特注して出来上がった衣装で舞った。北村さんは「大切なのは愛情や闘志といった人間の感情表現。観客に「踊り心」を伝えて」などと厳しく注文をつけた。

最年少の浜の宮中1年森本千穂さん(12)は「6月に引越してきて加古川を知りたいと思って参加した。初めての舞台で輝けるよう頑張りたい」と話す。会社員の栃尾亜紀さん(26)は「加古川といえは『踊っこ』と『ヤマトタケル』と言ってもらえる演技をしたい」と意気込んだ。

28日は市民会館で同振興会が「踊っこまつり 祝宴の舞」、加古川青年会議所がフオーラム「神話からつながる郷土の歴史と日本のこころ」を開催。メンバーはいずれにも出演する。同振興会☎079・436・4351、同会議所☎079・423・3076



28日の初披露に向け稽古する出演者たち
加古川市野口町